



まきのほら 市議会だより

第9号

平成20年2月発行

発行／牧之原市議会
編集／議会広報特別委員会



地震の爪跡が残る柏崎刈羽原子力発電所を議会で視察（3号機変圧器の火災現場）



牧之原市消防団出初め式の放水風景

もくじ

- 12月定例会の報告……………2～3
- 議会の構成……………6
- 議会活動紹介……………7
- 一般質問……………8～14
- 研修報告……………15

支援はじまる

12月
定例会

平成19年第6回牧之原市議会定例会

会期12月4日から12月21日(18日間)

今回の定例会は、19年度一般会計補正予算をはじめ、条例の一部改正などの議案が提出され、各常任委員会での慎重な審査を経て、原案どおりすべて可決されました。

また、議員発議により「飲酒運転根絶に関する決議」を採択し、牧之原警察署長に決議書を提出しました。

なお、一般質問は10・11日の2日間行われ、13人が当面する課題について見解をただしました。

提出された議案及び審議結果

▼予算

○平成19年度牧之原市一般会計補正予算(第5号)
〔全員可決〕

○平成19年度牧之原市一般会計補正予算(第6号)
〔全員可決〕

▼条例の制定

○郵政民営化法等の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について
〔全員可決〕

▼条例の一部改正

○政治倫理の確立のための牧之原市長の資産等の公開に関する条例の一部を改正する条例
〔全員可決〕

○牧之原市部設置条例等の一部を改正する条例
〔多数可決〕

○牧之原市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
〔全員可決〕

○牧之原市相良B&G海洋センター条例の一部を改正する条例
〔全員可決〕

○牧之原市社会体育施設条例の一部を改正する条例
〔全員可決〕

▼その他

○榛原地域土地開発公社の解散について
〔全員可決〕

○財産の処分について(蛭ヶ谷字真木ヶ谷 7筆)
〔全員可決〕

○財産の処分について(蛭ヶ谷字山西 2筆)
〔全員可決〕

○指定管理者の指定について(牧之原市さがら子生れ温泉会館)
〔全員可決〕

○字の区域の変更について
〔全員可決〕

○牧之原市宮土地改良事業(片浜口原地区)の施行について
〔全員可決〕

総括質疑

問 平成19年度の市債償還額は17億円余りで、起債額も17億円余りであり、財政健全化計画の推進に支障はないか。

答 財政健全化計画の遂行に支障をきたさないよう、今後の財政状況を見据えて対応します。

問 空港運営会社への出資(株

榛原総合病院へ財政

基準外繰入金補正予算

式取得)について、御前崎港への出資額を下げてまでも株式取得はいかなものか。
また、空港会社の運営が悪化した場合の責任はどうなるのか。

【答】 空港運営会社への出資については、県は「意欲は尊重する」と発言しているので、今後の県との協議の中で検討します。

【問】 150号バイパスの南遠幹線は、地頭方から大沢まで開通しているが、大沢から吉田町までの区間はどうかっているのか。

【答】 平成25年までに、吉田町と牧之原市の境まで完成する予定です。その先の事業着手は、現在、国に陳情・要望をしています。

通告質疑

○牧之原市部設置条例等の一部を改正する条例

【問】 市のPRについては、市長が随分力を入れているのは解るが、今回の機構改革は、全職員に理解されているのか。

また、一部の職員に負担が掛かり過ぎないか。更に、職員のやる気につながっているのか。

【答】 機構改革については、職員でプロジェクトを組み、改革案を作成するなど、内部で十分検討しました。

市民サービス向上と、より効率的な行政事務を行うため、職員研修の充実や意識改革を進め、各部チームワーク良く、適正な業務配分をしていきます。

○牧之原市社会体育施設条例の一部を改正する条例

【問】 指定管理者選定の透明性の確保、指定管理者に指定されない者の救済措置及び施設使用料の料金設定は、どのように考えているか。

【答】 指定管理者の選定にあたっては、選定委員会で検討し、結果については公表していく考えです。

救済措置は無く、使用料金は現行どおりです。

○牧之原市土地改良事業(片浜口原地区)の施行について

【問】 1・6ha、1,900万円
で基盤整備を行うということだが、市内の茶園面積からすれば微々たるもので、モデル茶園の域を出ず小面積である。茶業の将来と合わせて、どのように考えているのか。

【答】 茶園面積としては小面積ですが、茶業の将来性を考えると、生産性の高い茶園にすることが今後の茶業振興のためにも必要です。機械化には、茶園の基盤整備は必要不可欠となります。

しかし、面積を確保するには多くの地権者の同意が必要であるため、大規模な基盤整備は難しいのが実情です。



牧之原市さがら子生れ温泉会館指定管理者 継続で(有)さがら産業開発くらぶ

平成20年3月31日、三年間の指定管理者の契約期限を迎えます。

牧之原市さがら温泉会館条例では、第22条に現在の指定管理者から継続の申し出があった場合は、これまでの実績が良好に運営されていると認められた場合、公募を行わず再指定管理者の候補者として議会に提案する。

そして、現在の指定管理者から継続の申し出のない場合は、公募を行なう。第7条では、指定管理を受けようとする者は、規則で定める申請書に必要書類を添えて提出するとされています。

今回、現指定管理者から再指定の申し出があったため、公募は行わず、牧之原市さがら子生れ温泉会館指定管理者審議会が条例第22条で定められた審査を行いました。

審議会では、提出された収支

報告書、入館者集計表、維持管理報告書、今後の事業計画書等を基に協議され、12項目による評価を点数に表し、一項目1〜5点、合計60点満点で採点し、最高点と最低点の審査委員二人を除いた13名の平均点が36点上の場合、再指定と定め、結果、46・76点で市長に答申され12月定例議会に諮られました。

議会では、全員協議会で説明を受け、文教厚生委員会に付託し審議され、採決の結果、可決されました。



牧之原市さがら子生れ温泉会館 条例(第22条)

市長は、指定管理者の指定の期間満了に伴い、当該施設の指定を受けている指定管理者から再指定の申し出があった場合は、これまでの活動実績などを踏まえ、当該施設に係る事業が良好に運営されると認められる場合は、公募によらず指定管理者の候補者として議会に提案することができる。



牧之原市 さがら子生れ温泉会館

旧相良町時代、電源立地交付金を約5億3千万円投入して、町民の福祉の向上と健康増進を目的として始まった温泉事業です。

仮営業当時は町営でした。合併後の新会館オープン時からは指定管理者制度を導入して運営しています。

電源立地交付金で行なう事業からは、市は利益を得ることは出来ません。

利益を得られない市は、指定管理者と協定書を取り交わし、修繕費として総売り上げの5%を預かり、牧之原市さがら子生れ温泉会館維持基金として積み立てています。

この基金からは、一物件200万円を超える修繕費について、200万円は指定管理者が支払い、200万円を超えた差額分を市が基金で補います。

榛原総合病院に追加財政支援

榛原総合病院より、一時借入金が限度額を超えたため金融機関から融資を受けられなくなり、構成市町に財政支援（基準外繰入金）として、牧之原市に約3億2千万円、吉田町に約1億5千万円を繰入れてほしいとの要望がありました。

現在の医療を取り巻く環境は厳しく、新研修医制度などにより、地方病院の医師不足が深刻化し、全国各地で地域医療が継続できないような状況となっております。

また、国の医療費抑制政策により、健康保険の自己負担率引き上げや、診療単価の引き下げにより、全国の自治体病院の経営は逼迫する結果となり、さらに、近代化計画の増改築費の多額な返済もあり、経営状況が大変厳しいものとなっております。

このため、収益増に向けて医

師及び看護師の確保に力を入れ、設備等の維持管理費など経費の切り詰めに努力してきました。

しかし、収支は悪化する一方で、運転資金不足が生じ一時借入れに頼らざるをえない状況になり、18年度末には11億円となり、今後も年間約6億円の不足金増加が予想されます。

病院の自助努力だけでは経営が不可能なため、法に基づく負担金だけでなく、他の市町のように経営補助方針を打ち出しました。

これは、平成19年度から21年度までの3年間で14億3千万円の財政支援をし、21年度末に適正に運営されているかを評価し、その後の支援策を検討することとしたものです。

議員発議

飲酒運転根絶に関する決議

交通事故の無い、安全で安心して暮らしてゆくことができる社会の実現は、市民の共通の願いである。

しかし、交通事故の中でも、あってはならない飲酒運転が起因する悲惨な事故は依然として後を絶たず、家庭や社会に衝撃や深い悲しみをもたらしている。

このため、平成14年には法令が厳罰化され、さらに本年6月には運転者本人だけではなく、同乗者等についても運転者に準じる罰則規定が科せられた。

本市においては、昨年飲酒運転によって75人が検挙され、人口1万人当たりの検挙率は県下ワースト4位という最悪の状況である。

飲酒運転は、重大事故につながる悪質かつ反社会的な犯罪行為であり、中でも市民の代表者たる我々議員は、率先垂範して「飲んだら乗らない」「乗るなら飲まない、飲ませない」ことを遵守しなければならない。

よって、本市議会は、市当局をはじめ市民、関係機関・各種団体等との連携をさらに強化して、交通安全意識の高揚と、飲酒運転の根絶に取り組むことを、ここに決議する。

平成19年12月21日

静岡県牧之原市議会

議会の構成が変わりました

議長



川島啓司

副議長



鈴木勇次

開かれた議会を目指し、議会改革に取り組む

昨年11月の臨時議会におきまして議長に就任いたしました。

牧之原市が誕生して3年目に入り、市を取り巻く環境は大きく変わろうとしており、財政健全化と新しいまちづくりが行政に課せられた大きな課題であります。

議員は、市民の目線に立って議論していかねばならない時であり、議会を広く公開し、議会活動を解って頂くことが大事です。未熟ではございますが、旧相良町時代での議長経験を生かし、議会の活性化と改革に取り組むべく心を新たにしております。

市議会に対しまして市民の皆様
の益々のご理解とご協力をお願い
いたします。

○議会運営委員会

委員長 名波富幸
副委員長 太田佳晴
委員 鈴木勇次 大石和央 糸田幸一
小杉康男 鷺坂隆夫

○総務委員会

委員長 太田佳晴
副委員長 大石和央
委員 鈴木勇次
増田 仁
鈴木正樹
本杉光雄
松浦 毅

○文教厚生委員会

委員長 鷺坂隆夫
副委員長 小杉康男
委員 樽林憲樹
田村兼夫
加藤祥司
中山 香
笠原恒彦

○経済建設委員会

委員長 名波富幸
副委員長 糸田幸一
委員 川島啓司
大関住男
中野康子
大鐘俊英
鈴木千津子

○議会広報特別委員会

委員長 大鐘俊英
副委員長 中山 香
委員 加藤祥司
大関住男
本杉光雄
松浦 毅

○原子力対策特別委員会

委員長 鷺坂隆夫
副委員長 小杉康男
委員 川島啓司
樽林憲樹
増田 仁
大石和央
鈴木正樹
大関住男
鈴木千津子

○産業振興特別委員会

委員長 本杉光雄
副委員長 中山 香
委員 鈴木勇次
糸田幸一
田村兼夫
加藤祥司
名波富幸
中野康子
大鐘俊英
太田佳晴
松浦 毅
笠原恒彦

○議会選出農業委員

小杉康男 中野康子

○議会選出監査委員

田村兼夫

議

会

活

動

紹

介

(議長及び関係議員が出席した行事を含みます)

11月

- 1～2 監査委員研修会
- 5 議会運営委員会／県議長会政策研修会
- 7 議員全員協議会
- 13 臨時議会
- 15 駿遠学園管理組合議会
- 19 議員全員協議会／議会運営委員会
- 20 地方自治法施行60周年記念式典
- 21 一般質問ヒアリング
- 22 お茶ブランド化セミナー
- 24 人権啓発講演会
- 26 バイパス開通式
- 27 議会運営委員会／各常任委員会
総合計画審議会／相良町商工会臨時総会
- 28 榛原総合病院組合監査／農業委員会
都市計画審議会／榛原町商工会臨時総会
- 29 東京交流会
- 30 議員全員協議会／議会広報特別委員会

12月

- 1 市町村駅伝競走大会
- 2 地域防災訓練
- 4 本会議（提案説明）
- 5 さがら作業所開所落成式
- 6 4市市長・議長会議／原子力公開講演会
- 7 牧之原市御前崎市広域施設組合議会
- 10～11 本会議（一般質問）
- 12 原子力対策特別委員会
- 13 本会議（通告質疑）
- 17 各常任委員会（付託議案審査）
- 18 静岡県原子力発電所環境安全対策協会
- 19 議員全員協議会／産業振興特別委員会
文教厚生委員会
- 20 御前崎市牧之原市学校組合議会
農業委員会
- 22 中越沖地震を踏まえた対応状況についての
報告会
- 25 吉田町牧之原市広域施設組合臨時議会

- 26 区長会・相良地区区長会との懇談会
- 27 議会広報特別委員会／大沢保育園施設内覧
榛原総合病院組合臨時議会

1月

- 1 相良サンビーチ初詣（祈願式）
- 4 新年賀詞交歓会
- 6 消防団出初式
- 7 議会広報特別委員会
- 8～9 総合計画審議会視察研修
- 10 各常任委員会／議会運営委員会
- 13 牧之原市成人式
- 15～16 原子力対策特別委員会視察研修
（新潟県柏崎市）
- 17 議員全員協議会
- 19 原子力発電所と地震を考える意見交換会
- 21 議会広報特別委員会
- 22 原子力対策特別委員会
- 24 農業委員会
- 24～25 御前崎港振興会視察研修
- 25 文教厚生委員会
- 28 議会広報特別委員会
- 29 経済建設委員会
- 30 議会運営委員会
- 31 議員全員協議会／第134回静岡県市議会
議長会定期総会



12月定例会の様子

一般質問

(目次)

<p>1 松浦 毅 議員 (P 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海地震における救護所体制は ・両市町の救護活動、足並みをそろえられないか <p>2 中野康子 議員 (P 9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの支援は ・遠隔地の救護体制は ・全国学力テストの活用は <p>3 鷺坂隆夫 議員 (P 9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡空港開港に関して ・障害者用トイレ表示は ・相良総合センター(い〜ら)の運営について <p>4 大石和央 議員 (P 10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館機能の充実を <p>5 名波富幸 議員 (P 10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童数減少の影響は ・牧之原市学校給食センターの民営化に問題はないか <p>6 樽林憲樹 議員 (P 11)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政悪化をどう乗り切るか ・原発問題への新たな対応は 	<p>7 鈴木正樹 議員 (P 11)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事をどのように考えているか <p>8 桑田幸一 議員 (P 12)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食は食育の柱 ・食育教育の充実を <p>9 太田佳晴 議員 (P 12)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業化する萩間地区の不安解消策は <p>10 田村兼夫 議員 (P 13)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区への補助金は、活動に応じて決めるべきだ <p>11 大関住男 議員 (P 13)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残された空港の課題は <p>12 本杉光雄 議員 (P 14)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同世代の交流事業の提案 ・地産地消、地域自給に向けて <p>13 加藤祥司 議員 (P 14)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本条例の進捗状況は ・安心して暮らせる土地利用を
---	---



松浦 毅 議員

東海地震における救護所体制は

問 市長は、「18年度中には救護所を開設する。」また、広報まきのはら11月20日号では「被災患者は、病院ではなく救護所に運びましょう。」と呼びかけているが、市内9箇所の救護所体制はとれているのか。

答 9箇所の救護所では、医師等の体制がまだできておりません。

現在、三師会(開業医師・歯科医師・薬剤師)代表者及び榛原総合病院担当者と協議に入っております。三師会の医療スタッフの体制が整いしだい、順次開設してまいります。(市長)

両市町の救護活動、足並みをそろえられないか

問 本市の被災患者は、救護所でトリアージにより病院へ搬送される。

東海地震は、本市だけでも1

00人以上の死者、1,600人以上の重中傷患者が予想され、さらに、一時間以内に被災患者は病院に集中すると言われてい。直接病院へ行く吉田町を考えると、病院対応の被災患者数は膨大となり、院内患者もおり、病院医師対応は不可能となるのではないかと。

両市町の救護の足並みをそろえられないか。

答 本市と吉田町は、榛原総合病院において医療救護スタッフが確保されており、救護活動に対応できるといこと進めております。

本市と吉田町の被災患者の受け入れは可能と考えておりますが、今後は、さらに深く吉田町と協議してまいります。(市長)

※トリアージとは

災害時などの限られた状況の中、負傷者の緊急度と重傷度により、治療の優先順位を決定すること。



中野康子 議員

コミュニティバスの支援は

問 コミュニティバス試験運行の課題、市民の反響はどうか。

答 路線バスには年間2千万円ほど補助金が出ているが、コミュニティバスへの支援はどう考えているか。

地域主体の運営は、観光地や住民が多い地域ならNPOなど可能であるが、当地域では難しく、受益者負担の考え方は相応しくないとと思うが。

答 牧之原線、菅山線とも目標人数の約3分の1であり、本格運行は厳しい状況です。牧之原線は、10月の乗車人数225人、収支率5・6%で、最低でも収支率10%を超えて欲しい。課題は、財源や運営主体の組織づくりで、市の財政負担が軽減される市民主体の運営に対して、経費の2分の1を補助することを考えています。(市長)

遠隔地の救急体制は

問 消防本部から遠隔地の牧之原地区の救急事態に、どのように対処するのか。

答 救急隊の到着時間は、矢崎計器牧之原工場付近で21分かかり、到着目標時間の5分を大幅に上回っています。早急な遠隔地救急体制の整備を管理者に要望していきます。(市長)

全国学力テストの活用は

問 テストの結果を公表するのにか。また、どのように活用して教育に反映していくのか。

答 テストの結果を分析し、課題や対応策などを公表します。また、分析結果を学習指導計画に反映させ、個々に応じた指導の充実を図っていきます。(教育長)



コミュニティバスを利用する児童



鷺坂隆夫 議員

静岡空港開港に関連して

問 初倉商工会の「一番機に乗る会」への支援について以前質問したが、具体的な支援策はどうなったのか。

答 昨年の6月議会で「県知事に搭乗証明書を要望したらどうか」との具体的な提案を頂き、市内両商工会の協力を得て取り組んできました。初倉商工会には、搭乗記念証や記念盾の試作品を持参し、提案しています。(市長)

障害者用トイレ表示は

問 市が設置する公共施設等の案内看板に、車椅子用トイレ看板の表示をしていく考えは。

答 庁内案内看板設置検討会議を開催し、検討しています。なお、障害者トイレの設置場所は、市のホームページで場所と地図への表示を考えています。(市長)

(※現在では、ホームページに表

示されています。)



分かりやすいトイレ看板の表示例

相良総合センター(いっら)の運営について

問 相良総合センター(いっら)の利用状況はどうか。

答 また、市民から「使用料設定が高額ではないか」と言われている。料金の見直しは考えないか。

答 オープン以来6か月が経過し、11月末で20,713人、月平均3,400人の利用があり、稼働率も8割です。使用者からの声や、ご指摘も沢山聞いていますので、榛原文化センターとの調整を図りながら、料金改定を検討していきます。(市長)



大石和央 議員

図書館機能の充実を

問 県下23市の図書館・サービス指標で比較すると、牧之原市は最下位だ。そこで、基準財政需要額で措置される市の図書購入費はいくらか。

答 市立図書館の人口一人当たりの経費は、211円が単位費用です。これに本市の人口(補正人口)を乗じると、1,215万円となります。(教育長)

問 今年度の図書購入費は215万円で、1,215万円の5分の1以下だ。この最低予算状況をどのようにお考えか。

答 議員のご指摘のような最低状態から、少しでも改善していくよう努力します。

(教育長)

問 専任司書がない、または図書館協議会もない現状をどのようにお考えか。

答 読書活動の活発化には、専任職員が必要と考えます。協議会についても、そのような

ものを、来年早々には立ち上げていきたいと思えます。

(教育長)

問 図書館機能を充実するためには、パソコン管理が必要ではないか。

また、インターネットによる検索システムも整備したいものだが。

答 これからは、やはり電算化が一番だと考えます。まず蔵書管理や貸し出し等の処理は、パソコン2台と周辺機器購入200万円程で出来るので検討します。長期的にはインターネットで、検索できるよう図ってきたいと思えます。(教育長)



充実を園りたい市の図書館



名波富幸 議員

児童数減少の影響は

問 近年少子化の影響により、児童数が減少している。大規模校の相良小や川崎小と、小規模校の菅山小や片浜小の一年間の生徒1人当りの管理運営費の差はどれくらいか。

来年度以降、片浜小においては複式学級も想定される。地元や保護者に十分説明をしなければならぬと考えるが。

答 児童1人当りの運営費は、大規模校の相良小が2万5,456円、川崎小が2万3,284円、小規模校の片浜小は8万2,141円で、約4倍になります。

片浜小においては、来年1人の転校があると複式学級になりますので、今後、地元や保護者の皆様に説明していきます。(市長)

牧之原市学校給食センターの民営化に問題はないか

問 平成20年9月から、学校給食の民営化が予定されてい



小学校の授業風景

るが、どのような民営化をするのか。

現状の市職員や嘱託職員の処遇、また、食品の安全性や食育教育に問題点はないか。

答 献立の作成、食材の購入や検収などの主要な部分は、今までどおり責任を持って行い、調理や配送、食器等の洗浄業務を民間に委託します。

市職員は、菅山小や萩間小などの単独調理場に配置換えをし、嘱託職員は退職となります。

献立の作成、食材の購入や検収は栄養士が行い、食育に関する指導も、給食時間や授業中に教師や栄養士が行います。

地産地消については、相良青果市場を通して、できるだけ地元の物産を利用します。(市長)



樽林憲樹 議員

財政悪化をどう乗り切るか

問 公債費残高約400億円、実質公債費比率21・4%の市財政は、県下最下位の位置にある。

この窮状を、どういう方策をもって乗り切るのか。

答 財政運用の基本は、「歳入に合う歳出。規模に合った行政を行う。」ことに尽きます。行政改革の推進では、補助金も前年の踏襲ではなく、必要性や公平性を再度点検し、補助金指針を確立し、一層の適正化に努めます。

受益者負担については、市民との協働や、民間活力を利用した新たな行政サービスの構築が重要で、これがフォーラムの発想です。合併後3回目の予算編成期ですが、まちづくりの成果や課題を検証し、国の予算編成の動きにも留意して、20年度の編成に取り組みます。(市長)

原発問題への新たな対応は

問 原発への不安は、裁判所の判断で直ぐに消えるものではない。周辺4市20万人の、原発に対する心底の声を聞いて対応すれば、事を誤らぬと思う。市は、全市民にアンケートを実施し、世論の動向を探るが先決と思うが。

答 判決は、十分意義あるものと思います。地震に対する安心感の醸成が、今後にも必要と考えます。

地震と安全性に関しては、市独自でもシンポジウムを開いて、市民の意見を聞いて進める考えです。(市長)



原子力公開講演会の様子(あざれあ)



鈴木正樹 議員

伝統行事をどのように考えているのか

問 今年の田沼意次候御城下祭りには、市民から悪評を受けているが、どこが主催で何を考えているのか。単なるフリーマーケットで、本来の主旨・主題がなくてよいのか。

答 官・民から民・官の協働の中で、引き続き来年も行う約束をしたと聞くが。

問 主催者は、例年どおり実行委員会に委託する形で、構成はフォーラムまきのはらのイベントグループが中心です。

場所については、夏はシーサイドパーク、秋は農協祭と同じ会場で、飲食や団体の展示PRなど内容的に同じだからという理由で、また、夏の陣・秋の陣の名称も、夏開催・秋開催イベントという意味で行いました。

同時開催については、市が関係しているイベントは可能な限り各担当課で調整しています。



11月に行われた御城下祭り

各地区での歴史的な伝統行事は、今後も継続していくべきであり、地域・世代間交流を深めるためには必要です。

地域振興、観光振興、商工振興等の目的に照らし、イベントの方向性を考え、今後、各主催者を集めた情報交換の場を設け、本市活性化を進めます。

限りある予算の中で、市が全面的に事業費を支援するのではなく、皆さんの知恵とアイデアを生かした取組を支援していく考えです。(市長)



桑田幸一 議員

学校給食は食育の柱

問 『学校給食「食育」を重視、「学ぶ場」として位置付け』と新聞記事にある。学校給食は食育の柱であり、現行制度を維持すべきだ。

民間委託になれば失業する職員も出る。技術と経験を持つ職員は、給食現場に必要だ。

民間委託ではなく、自校方式で地産地消を推進する高知県南国市の給食改革を見習うべきでは。

答 委託するのは、調理や配送、食器の清掃業務であり、食材の購入や検収は教育委員会が行い、栄養士も今までどおりです。小中学校の食育、栄養指導の一層の推進を図っていきますので、一部民営化にご理解を頂きたい。

南国市の給食改革ですが、地産地消を生かすアイデアと実行力は大変すばらしく、大いに参考になります。本市でも学校給

食地産品導入事業を始めました。幼い時からの食の大切さを培い、地産地消の拡大や関心にも力を入れていきます。(教育長)

食育教育の充実を

問 食育教育は、相良地区と榛原地区で差異はないか。また、栄養士の増員を図るべきでは。

答 相良地区では、3人の栄養士が全校・全学級で指導を行っており、18年度は年間79回、家庭科や学級活動、給食の時間等で行っています。

榛原地区では、県栄養士2人ということもあり、各学校の要請により行っており、十分な指導体制が取れず、課題となっています。吉田・榛原共同調理場とも協議し、榛原地区でも全校・全クラスで指導できる体制で行っていく計画です。(教育長)



太田佳晴 議員

工業化する萩間地区の不安解消策は

問 スズキ(株)相良工場の車両組立工場の稼働を間近に控え、地元住民の不安に対し、どのように対応するのか。

①通勤時の交通混雑と、企業関係車両の交通状況の予測、また、具体的な対応策は。通学路の安全確保(歩道・道路照明)は。
②治安維持のため、萩間地区内に交番を設置し、昼夜の警戒体制をとるべきと思うが。
③増加する外国人との共生の問題と、外国人の子供が増加している萩間小学校への支援はどうする。

答 ①スズキ(株)では、平成21年のフル稼働時には、運搬車と通勤車両で、一日当たり往復9,384台と現在の約2.5倍になると見込んでいます。

交通量緩和対策としては、開通した国道473号バイパスと、今後整備される北伸部分に期待



西萩間地区での朝の交通渋滞の様子

しますが、工場北側にも市道建設を進め、車両の分散化を図ります。

萩間駐在所からバイパス東萩間ICまで歩道を設置し、交通量の多い交差点や見通しの悪い箇所については、順次道路照明灯の設置を進めます。

②萩間地域を含む相良地区については、相良交番の建替え計画に併せて、平成20年以降に警察署と地域とで連携し進めていきます。

③進出企業にも要請して、よりよい対策支援を考えます。バイリンガル相談員や日本語指導員を配置して、就学支援を図ります。(市長)



田村兼夫 議員

区への補助金は、活動に応じて決めるべきだ

問 区の発展なくしては、市の発展はありえない。地域の問題に積極的に取り組む区を育成するために、市からの補助金も一律ではなく、区の活動に応じて支給すべきだと思うが、当局の考えは。

答 区への補助金は、旧両町で異なっていました。区長の代表者による調整会議で、19年度から自治振興費（運営費）と行政事務連絡事務交付金（事務費）で一応の統一を図りました。

しかし、課題もありましたので、地区長会で再検討していただいたところ、これらを事務的経費一つにまとめること、支払先も25区から12地区に変更することなどが検討されました。現段階では、共通する事務経費として算出基礎を統一して支給する方向で進めております。

区の活動に応じての支給は、防犯灯などの設置では既に実施していますが、区独自の事業に関しては、担当部署において助成を検討してまいります。

将来は、地域において自己責任と自己決定の原則を確立し、自治会が地域の問題を解決する制度が実現すれば、補助金ではなく予算配当的な財政措置も可能ではないかと考えております。地域にできる限りの権限を持たせて、地域の特色を生かし、地域力を伸ばしていける地域づくりを目指してまいります。

（市長）



自治会の活動風景



大関住男 議員

残された空港の課題は

問 空港周囲部の里山の管理と、その中に作られた自然公園やビオトープ等の管理について、どのように対応するのか。

答 空港周囲部には300ha余りの緩衝緑地があります。県では、基本的に維持管理を民間へ委託する考えですが、これまでの経緯から、周囲部整備に関わった地元の活動団体が参画できる体制作りも考えているようです。

市民などが維持管理に関わることで、地元の労働力を使った管理のあり方や、NPO等の組織化についても、県や市民と共同に検討する考えです。（市長）

問 空港隣接地域振興事業の実施が遅れているが、今後の見通しは。

答 隣接補助事業は、地域の空港受け入れの判断材料の一つでもあり、約束したことは時間が掛かっても実施します。



千頭ヶ谷池の隣に整備されたビオトープ

しかし、国・地方共に厳しい財政状況にあり、開港後に税収として見込まれる航空機燃料譲与税などで、緊急性や、より効果が期待できるものから実施をしていきます。（市長）

問 吉田インタールートへの南原工区着工の見通しは。

答 県は、赤坂工区完成後、できるだけ早期に着手できるように検討中とのことです。

具体的には、アクセス道路計画を策定してから長期間経過しており、最新の情報を取り入れ、最新の事業手法の検討や、その採択に向けて条件整理を行っているとのこと。（市長）



本杉光雄 議員

同世代の交流事業の提案

問 市民との協働を積極的に推進し、一層の融和を図るため、同年代を対象とした事業を提案するが。

答 市民の交流を図る方法として、公民館活動や自治会活動を通して皆が協働で取り組めるよう、あらゆる年代の学習の場を提供することが必要となっています。一例ですが、豊岡と坂部地区では、自治会活動やお祭り、作品の展示を通じて理解しあう交流を深めています。

また、はりはら塾や田沼塾では、多くの学習成果の発表会を開催し、意欲的に学習に取り組んでいます。将来的には市長部局で取り組む生涯学習推進大綱に盛り込んでいくことが必要と思われる。（教育長）

地産池消、地域自給に向けて

問 企業誘致、雇用、誘客等により、地域での食料消費需

要量は高まると見込まれる。多様化する食生活の中で、地元卸売業界、JA、漁協などとの連携をいかに図るか。

答 現段階では、相良青果市場に推進役になっていただき、スズキ（株）社員食堂にカット野菜を搬入すべく、食堂委託業者との契約に至っています。

今後、相良青果市場では、市内農業生産者との契約栽培を意欲的に行っていくことも示しており、市としても、生産者への周知や契約締結の支援、更には生産者の組織化についても積極的に推進していきたいと思えます。（市長）



地元食材を扱ってくれるスズキ(株)社員食堂



加藤祥司 議員

基本条例の進捗状況は

問 牧之原市まちづくり基本条例（仮称）の制定に向けての検討状況は。

答 まちづくり基本条例を考える会を、平成19年2月に公募や地域、団体、企業から推薦された市民61人により発足し、条例制定の必要性や背景、市民主体のまちづくりを進めるルール等について意見交換を重ね、条例制定への共通認識の醸成に努めてきました。

今後、条例制定にあたっての必要性や策定体制、条例に盛り込むべき内容、留意事項について意見集約を行い、報告書をまとめる予定で作業が進められています。来年度は、この報告書を基にして、条例の策定体制を整えて進めていく予定です。

11月には、この2年間の取り組みに対して市民意識調査を実施し、市民の意見を聞くための配慮をしました。（市長）

牧之原市土地利用計画（案）の図



安心して暮らせる土地利用を

問 総合的な秩序ある土地利用は。

答 総合的な土地利用については、国土利用計画牧之原市計画を策定中です。本計画は、国土利用計画法第8条に基づき、平成27年までの計画となっております。

本計画は、あくまでも土地の基本方針を定めるもので、土地利用関連法の適正な運用により、規制や開発の際の災害防止、環境対策などを講じてまいります。（市長）

研修報告

◆新潟県中越沖地震の状況及び対応について◆

原子力対策特別委員会

委員長 鷺坂隆夫

昨年7月16日に発生した新潟県中越沖地震は、柏崎市をはじめ周囲に甚大な被害をもたらした。特に、柏崎刈羽原子力発電所の被災報道は、浜岡原子力発電所の耐震安全性に不安を与えるものでありました。

現在、浜岡原発へのプルサーマル導入の議論が進められていますが、原発の安全性の確認は重要であることから、本年1月15～16日の2日間、柏崎市と地元の市民団体から対応状況等の説明を受け、意見交換を行い、柏崎刈羽原子力発電所では、被災状況等について現地を確認しました。

柏崎市議会

原発調査特別委員会

「震災直後、市議会としては特に対応はできなかった。中越地

震を教訓に、それぞれの避難所開設の周知、避難所開設準備、高齢者の安否確認、周辺の被害状況等を災害対策本部へ適宜連絡を取るとともに、町内会長と避難所の運営について協議を行いながら行政との連絡調整を図った。」とのことでした。



柏崎市議会から説明を受ける本市議員

柏崎刈羽原子力発電所の

透明性を確保する地域の会

立地市住民として、賛成、中立、反対の立場の代表者が、原発について自分の責任で発言し、国、県、市議会及び東京電力に対して、問題点や意見を述べていました。

○具体的な意見

・無線広報は、新しい情報だけでなく、古い情報も繰り返し流すべき。取材ヘリコプターの騒音で聞き取れなかったので、繰り返し広報されていれば、デマ情報に振り回されることはなかった。

・人体に影響がない極微量の放射能漏れがあったのは事実だが、報道のあり方一つで風評被害に繋がるため、慎重な報道をして欲しかった。地元報道機関の記事は、住民の安否や具体的な報道であり、感謝している。

・保安院や県職員の異動が約2年と短く、しかも重なるため、情報が共有されず途絶えてしまう。情報の風化を防ぐ共通会議が必要。

柏崎刈羽原子力発電所

耐震基準の重要建物に比べ、軽度の基準の施設が被害に遭っていました。

具体的には、炉心建屋やタービン建屋は50m掘削して基礎地盤に設置しているため被害は殆どなく、緊急時の「止める、冷

やす、閉じ込める」の原則は正常に作動したとの事で、施設の内部まで詳細に見学させてもらいましたが、嘘ではないことが確認できました。

火災が発生した変電施設や消火設備は、埋め戻し地盤に建ててあったため、十分に締め固めたつもりでも地震による液化化で地盤沈下して、連結部等に被害がありました。

テレビ放送での火災は、原子炉は止まったが、タービンの惰性で発電した電気がショートして発生したものでした。

林所長の説明は大変解りやすく、雪の中、手がかじかむ中で説明に真剣に耳を傾けました。



施設内部の状況を確認

2月定例会の日程

- 2月25日(月) 提案説明
- 3月7日(金) 通告質疑
- 10日(月) 一般質問
- 11日(火) 一般質問
- 12日(水) 一般質問予備日
- 25日(火) 最終日

ぜひ、
傍聴に
お出掛け下さい。

相良庁舎4階議場 9:00～

くわしいことは 議会事務局
電話 53-2650へ



(暫定) 大沢保育園を内覧

大沢保育園の耐震性が低く、園児の安全性を考えて、相良小学校の校舎の一部を保育園に活用することになり、開園に伴う内覧会が開催された。

議会広報特別委員会



後列 松浦 毅 本杉光雄 大関住男

前列 中山 香 (副委員長) 大鐘俊英 (委員長) 加藤祥司



議員報酬等について議論

区長会からの要望を受けて、議員報酬の削減と定数の減について、区長会と議員との懇談会が行われました。

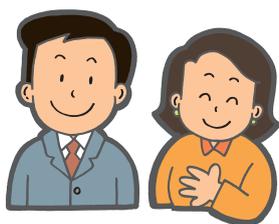
編集後記

新年、明けましておめでとうございませう。「一年の計は元旦にあり」という言葉のように、新年の計画は立てられたでしょうか。

箱根駅伝のランナーのように、何度倒れても起き上がり、次のランナーに「襷」を渡そうとする姿は、見ている私たちに多くの感動を与えてくれました。

議会広報誌は、こうした感動も報告しながら、市民と議会のパイプとして、議会の今を伝えてまいります。

また、今回から広報委員会のメンバーが変わりました。皆様にかかりやすい、より身近な広報誌としてこれからも取り組んでまいりますので、今後よろしくお願ひ致します。



牧之原市議会定例会（一般質問等）については、ホームページに掲載されています。

〒421-0592 牧之原市相良275番地 電話0548 (53) 2650 FAX 0548 (52) 1116

牧之原市ホームページ <http://www.city.makinohara.shizuoka.jp> 市議会メールアドレス gikai@city.makinohara.shizuoka.jp

「まきはら市議会だより」は再生紙を使用しています。